分析的な形Ⅱ-ㄹ 생각이-類雑考

高地朋成
高麗大学校国語国文学科博士課程

1. はじめに

本稿は，現代朝鮮語に数多く存在する分析的な形(analytic forms)に関する研究の一環を担うものである．菅野他(1991:1018)や菅野(2006:172)によると分析的な形とは，「2単語以上からなる文法的な形式」を言う．現代朝鮮語は，膠着的性格が強く分析的な形が数多く存在するが，意外にも学界において分析的な形に関する研究はそれほど多くない．

本稿の研究対象はⅡ[1)]-ㄹ 생각이-，Ⅱ-ㄹ 작정이-，Ⅱ-ㄹ 예정이-，Ⅱ-ㄹ 계획이-である(本稿では便宜上，これらの分析的な形の総称として「Ⅱ-ㄹ 생각이-類」を用いる)．これらの形式は表面上，<連体形語尾Ⅱ-ㄹ ＋ 名詞 ＋ 指定詞이->という統辞論的構造を持ち，また機能的にも主体の「意志」，「予定」，「計画」等といった潜在的な動作に関する実現様式を表すといった点で類似している．これらの形式間の機能的類似点と違いを明らかにすることは非常に重要な課題であるが，本稿ではその問題の核心については扱わず，これまでの考察結果の報告に留めたい．本稿はこれまでの考察の中間報告であり，以下の点について言及する：

第一に，Ⅱ-ㄹ 생각이-類が分析的な形として認められるか否か検証する．第二に，統辞論的観点および，機能=意味論範疇(functional-semantic categories)の１つであるモダリティ(modality)の観点からⅡ-ㄹ 생각이-類を考察する．第三に，連体形語尾Ⅱ-ㄹの機能とⅡ-ㄹ 생각이-類の機能的関連性を論ずる．

考察の際，出来るだけ実際の言語資料から収集した例文を用いるが，必要に応じて朝鮮語母語話者の協力を得た作例も用いることにする．

2. Ⅱ-ㄹ 생각이-類は分析的な形か否か

上でも述べたように，分析的な形とは「2単語以上にまたがって文法的な機能を示す形式」である．Ⅱ-ㄹ 것이-やⅡ-ㄹ 터이-は依存名詞(bound noun)것や터が持つ本来の語彙的な意味が漂白(bleaching)[2)]され，「推測」や「意志」といったモーダルな意味(modal meanings)を表し，また音韻変化(phonological change)も起こるため(例：Ⅱ-ㄹ 거야，Ⅱ-ㄹ 텐데等)，文法化(grammaticalization)を経た分析的な形と見なし

ても何ら問題は無いであろう．しかしながら，Ⅱ-ㄹ 생각이-類の場合は事情が異なる．これらの形式に含まれている생각，작정，예정，계획は自立名詞(free noun)であり[3]，その語彙的な意味がほぼ完全に残っている．すなわち，Ⅱ-ㄹ 생각이-類が，モーダルな意味やテンポラルな意味(temporal meanings)を表すのは，名詞생각，작정，예정，계획が持つ語彙的意味が漂白された結果と考えることはできず，単に各名詞がもつ元来の語彙的な意味による影響が色濃く現れている結果であると考えられる．文法化はそれほど進んでいないものの，Ⅱ-ㄹ 생각이-類は分析的な形と呼びうるに相応しいであろう．その理由として第一に，Ⅱ-ㄹ 생각이-類が用いられた文は典型的な指定詞이-構文とは異なり，主部と述部の同格関係が成り立たないという点，第二に，名詞생각，작정，예정，계획の指示対象が明確でないという点，第三に連体修飾節が「同格節」であるという点が挙げられる．具体的な検証内容は以下のとおりである．

普通，<[名詞(句)1]가/이 [名詞(句)2]이->や<[名詞(句)1]는/은 [名詞(句)2]이->という構文では，[名詞(句)1]と[名詞(句)2]は同格の関係を成す．例えば次の例文(1)を見てみよう：

(1) 현재의 내 총재산은 사십이만 팔천 원이다. <양1>
現在の私の全財産は428,000ウォンだ.

例文(1)では，「현재의 내 총재산(現在の私の総財産)」という[名詞(句)1]が「사십이만 팔천 원(428,000ウォン)」という[名詞(句)2]と同格関係を形成しており，主部の内容が述部によって具体的に説明されている．同様のことが以下の例文(2)～(8)でも確認され得る：

(2) 부정적인 생각은 사탄 마귀가 주는 생각이다. <최1>
否定的な考えはサタンが与える考えである.

(3) 어른이 되어서도 '나는 인내심이 부족한 사람'이라는 생각을 갖고 살아간다. 그러나 이것은 부모가 심어준 생각이다. <김1>
大人になっても「自分は我慢が足りない人間だ」という考えを持って生きて行く．しかし，これは親が植えつけた考えである.

(4) 그는 여기를 떠나 깊은 곳에 가서 동굴생활을 하려고 작정한 것이었다. 그것은 열병(熱病) 속에서 한 작정이었다.<장1>
彼はここを去り深い場所へ行き洞窟生活をしようと決めたのであった．それは熱病の中で固めた決意であった.

(5) 내일 여행을 가는 것은 이제 못 바꾸는 예정입니다. <作例>
明日旅行へ行くことはもう変更することができない予定です.

(6) 그녀가 유학을 떠나는 것은 대학입학 때부터 정해진 예정이다.
<作例>
彼女が留学するのは大学入学時から決められた予定である.

(7) 경기 전 계획은 필드에 나가기 전에 세우는 계획이다. <홍1>
競技前計画はフィールドに出る前に立てる計画のことである.

(8) 이번 계획은 처음부터 우리를 생각하지 않고 황상께서 세운 계획이다. <동1>
今度の計画は最初から我々のことを考慮せず，皇上が立てた計画である.

例文(2)～(8)では[名詞(句)2]が<連体形語尾Ⅰ-는/Ⅱ-ㄴ + 名詞생각/작정/예정/계획>[4]という統辞論的構成を成しているが，この場合も[名詞(句)1]と[名詞(句)2]は同格関係を形成していることが分かる.

しかしながら，分析的な形Ⅱ-ㄹ 생각이-類が用いられた場合は上記のような同格関係が成り立たない．以下の例文(9)～(12)において，二重下線部分は[名詞(句)1]であり文における主部に当たり，下線部分は[名詞(句)2]であり述部にあたるが，[名詞(句)1]と[名詞(句)2]は同格関係を成していない．例文(9)～(12)の場合，主部によって表される主体が行うべき潜在的動作に関する何らかの言及(意志，予定，計画等)が示されており，まるでⅡ-ㄹ 생각이-類が用言の終止形相当の働きをしている：

(9) 나는 정년 후에도 이 중에서 몇 가지를 선택해 건강이 유지되는 한 계속 공부하고 연구할 생각이다. <권1>
私は定年後にもこの中から幾つかを選択し，健康が維持される限りずっと勉強し研究するつもりだ.

(10) 내일을 장담할 수 없는 나이긴 하지만 그녀는 살아 있는 한 재미있게 살 작정이다. <김2>
明日を壮語することが出来ない歳ではあるけれども，彼女は生きている限り面白く生きるつもりだ.

(11) 우리는 내일 아침 용평 스키장으로 출발할 예정입니다. <이2>
我々は明日の朝，龍平スキー場へ出発する予定です.

(12) 이들은 의류 매장, 레스토랑에 이어 비슷한 콘셉트의 호텔, 골프장, 요트장도 세울 계획이다. <김3>
これらは衣類売り場，レストランに続き似たようなコンセプトのホテル，ゴルフ場，ヨット乗り場も立てる計画だ.

これは例文(9)～(12)における<連体形語尾Ⅱ-ㄹ + 名詞생각/작정/예정/계획 + 指定詞이->が表面的には統辞論的な構成として存在してい

るが，内容的には特定の文法的機能を担っているという事実を示していると考えられる．すなわち，Ⅱ-ㄹ 생각이-類は単なる統辞論的構成の形式ではなく，主体が行うべき潜在的動作に関する言及を行うという文法的機能を備えているのである．

次にⅡ-ㄹ 생각이-類では，各名詞생각/작정/예정/계획が示すべき指示対象が明確でないという点が特徴的である．普通，名詞はその指示対象の存在が前提となる．例えば以下の例文(13)において，名詞생각(考え)の指示対象は話し手(作者)の信条であり，指示代名詞이것(これ)に集約される．ところが上記の例文(9)～(12)の場合は例文(13)とは異なり，名詞생각/작정/예정/계획の指示対象が明確ではない．そのためⅡ-ㄹ 생각이-類が述部に用いられた文では，指示代名詞이것等が主部の位置に現れると文が不自然になる(例文(14))：

(13) 그 사회 윤리적 실천성은 이제 전통적 유교 논리가 아니라 당연히 민주주의에서 찾아야 한다. 이것이 나의 생각이다. <박1>
その社会倫理的実践性はすでに伝統的儒教の論理ではなく，当然民主主義から見出さなければならない．これが私の考えである．

(14) 이것이 우리는 내일 전라남도로 출발할 {?*생각/?*작정/?*예정/?*계획}이다. <作例>

Ⅱ-ㄹ 생각이-類に含まれる名詞생각/작정/예정/계획の語彙的な意味は色濃く残っているが，その指示対象が明確ではないという事実から，名詞생각/작정/예정/계획の持つ本来の機能の一部が喪失していると考えられるであろう．

最後に，Ⅱ-ㄹ 생각이-類における連体修飾節と名詞との関係について考察してみよう．Ⅱ-ㄹ 생각이-類に含まれているⅡ-ㄹは他の連体形語尾と同様，後ろに来る体言を修飾するという統辞論的機能を持っている．例えば以下の例文(15)と(16)を見てみよう：

(15) 우리는 책을 읽기 전에 읽을 책의 제목, 사진, 기타 정보를 대하면서 그 내용을 추측할 수 있다. <구1>
我々は本を読む前に読むべき本の題目，写真，その他の情報に向かい合いながらその内容を推測することが出来る．

(16) 외출시 잠구었다고 생각한 문이 열려 있다는 것은 집에 도둑이 들었을 가능성을 암시한다. <한1>
外出時に鍵をかけたと思っていたドアが開いているということは家に泥棒が入った可能性を暗示している．

例文(15)および(16)では，いずれもⅡ-ㄹが後ろに来る体言を修飾しているが，両者には次のような違いがある．すなわち，例文(15)では被修飾体言である名詞책(本)が，連体修飾節が表す内容の一部(すなわち動詞읽-の目的語)に成っているのに対し，例文(16)では連体修飾節が表す内容と被修飾体言である名詞가능성(可能性)が，同格の関係を示している．連体修飾節について詳細に述べている남기심(2001:240-250)では例文(15)のようなものを関係冠形節(관계관형절)(以下，「関係節」と呼ぶ)，例文(16)のようなものを同格冠形節(동격관형절)(以下，「同格節」と呼ぶ)と呼んでいる[5]．

例文(9)～(12)を見れば分かるように，Ⅱ-ㄹ 생각이-類は，「関係節」は存在せず，全て「同格節」である．この特徴は<連体形語尾 + 名詞(依存名詞/自立名詞) + 指定詞이->という統辞論的構成の分析的な形であるⅡ-ㄹ 것이-，Ⅱ-ㄹ 터이-，Ⅰ-는/Ⅱ-ㄴ/Ⅱ-ㄹ 모양이-，Ⅰ-는 법이-，Ⅰ-는 중이-，Ⅰ-는 길이-等と同様である．連体形語尾と名詞を含んだ分析的な形は，「関係節」ではなく「同格節」を形成するという一傾向が存在するようである：

(17) 당연히 무게가 무거워지면 자신도 모르게 근육이 경직되며 위축되는 느낌을 받을 것이다. <양2>
当然，重量が大きくなれば，自らも知らぬうちに筋肉が硬直し萎縮する感覚を受けるであろう．

(18) 상상하기 힘든 기업이 1등을 차지했다면 사회적으로 더 큰 파장을 일으켰겠지만, 사실 그런 기업이 가장 '지속 가능한 기업'이라면 어폐가 있다는 반응을 얻을 터이다. <안1>
想像しがたい企業が1位の座を占めたとすれば，社会的により大きな波長を引き起こしたであろうが，事実そんな企業が最も「持続可能な企業」であれば，語弊があるという反応を得るはずだ．

(19) 소나기가 올 모양이다. <함1>
にわか雨が降るようだ．

(20) 역사는 승리한 사람들의 자랑만이 남는 법이다. <김4>
歴史は勝利した者たちの自慢だけが残るものだ．

(21) 우리는 공터 한쪽에 편하게 앉아 담배를 피며 대화를 나누는 중이다. <박2>
我々は空き地の一方に楽に座って煙草を吸って対話をしているところだ．

(22) 덕성이란 사람이 타고나 지니고 있는 도덕적 본성이요, 묻고 배우는 학문이란 후천적으로 선에 대한 지혜를 넓히는 길이다. <박3>

徳性というのは人が生まれながらに持っている道徳的本性であり，聞いて学ぶ学問とは後天的であり，善についての智恵を広げる道である.

以上のような考察結果を考慮すれば，Ⅱ-ㄹ 생각이-類は分析的な形として認められるべきであろう.

3. 統辞論的観点およびモダリティの観点から見たⅡ-ㄹ 생각이-類

本稿の3.1～3.3では，Ⅱ-ㄹ 생각이-類とⅠ-겠-，Ⅲ-ㅆ-，各種分析的な形との連辞関係をモダリティの観点から説明してみようと思うが，それに先立ち，ここではモダリティについて概略的に説明しておこう.

筆者は高地(2008:4-9)において，Bybee(1985)，山田(1990)，Palmer(2001)によるモダリティに関する先行研究を基にモダリティの理論的分類を次の【表1】ように示した：

【表1】モダリティの下位分類

<table>
<tr><td rowspan="4">モダリティ
modality</td><td rowspan="2">話し手志向モダリティ
speaker-oriented modality</td><td>認識的モダリティ
epistemic modality</td><td rowspan="2">※より主観的な性格</td></tr>
<tr><td>証言的モダリティ
evidential modality</td></tr>
<tr><td rowspan="2">動作主志向モダリティ
agent-oriented modality</td><td>拘束的モダリティ
deontic modality</td><td rowspan="2">※より客観的な性格</td></tr>
<tr><td>動的モダリティ
dynamic modality</td></tr>
</table>

まず，話し手志向モダリティ(speaker-oriented modality)とは，山田(1990:41-42)による術語であるが，これは命題(modality)に対する話し手の「判断(judgment)」や「推量」を表すものである．次に，動作主志向モダリティ(agent-oriented modality)とは，「義務(obligation)」，「許可(permission)」，「欲求(desire)」，「意図(intention)」等の様に動作主(agent)に関する状態を表示するものである．この術語は，Bybee(1985:166-169)によるものである.

認識的モダリティ(epistemic modality)，証言的モダリティ(evidential modality)，拘束的モダリティ(deontic modality)，動的モダリティ(dynamic modality)という術語は，Palmer(2001:7-10)に倣ったものである．前の2つは，命題に対する話し手の「判断」を示すものであるので話し手志向モダリティに，後の2つは，潜在的な動作に対する

動作主の振る舞いに関するものであるため動作主志向モダリティに属する(なお，Palmer(2001)は前者を命題モダリティ(propositional modality)，後者を出来事モダリティ(event modality)と呼んでいる).

認識的モダリティは命題に対する事実上の状態に関する話し手の「判断」に関係しており，また証言的モダリティは命題に対する事実上の状態に関して話し手が持つ「証拠(evidence)」を示すことに関連する.

拘束的モダリティは，現実化されていない潜在的な出来事が現実化されるための要因が，動作主にとって外的なもの，すなわち「義務」や「許可」に関連し，一方，動的モダリティは，現実化されていない潜在的な出来事が，現実化されるための要因が動作主にとって内的なもの，すなわち「能力」や「好んで行うこと(willingness)」に関連する．拘束的モダリティと動的モダリティはいずれも現実化されていない潜在的な出来事に関わるものである．拘束的モダリティは現実化されていない潜在的な出来事を現実化させるための要因が動作主にとって外的なものであり，反対に動的モダリティは内的なものであるため，これら2つのモダリティは，潜在的な出来事を現実化させる要因という観点から見れば，相反する性質を持つものであると言える．すなわち，両者は一次元的な対立関係にあると言い得る.

モダリティはよく主観的なものであると言われる．しかしながら，話し手志向モダリティ的性格のものは，話し手の判断や主張等に関与しているため相対的に主観的であると考えられ，また動作主志向モダリティ的性格のものは，動作主が行う動作や状態を示すものであるため相対的に客観的であると考えられる[6].

3.1. 動作主体制約について

Ⅱ-ㄹ 것이-やⅡ-ㄹ 터이-は，基本的に動作主体の種類によってその表す意味が異なるという特徴を持っている．例えば以下の例文(23)と(24)では，動作主体が話し手である場合は話し手の「意志」を表すが，動作主体が第三者である場合は「第三者が当該の動作を行うであろう」という話し手による「推量」を表す：

(23) {내/그}가 도와 줄 겁니다. <作例>
　私が手伝うつもりです．/彼が手伝ってくれるでしょう.

(24) {내/그}가 도와 줄 텐데요. <作例>
　私が手伝うつもりですが．/彼が手伝ってくれるでしょうに.

したがって，Ⅱ-ㄹ 것이-やⅡ-ㄹ 터이-は統辞論的環境によってその

表す意味が話し手志向的性格を帯びるのか，或いは動作主志向的性格を帯びるのかが決定されると言い得る[7]．

では，Ⅱ-ㄹ 생각이-類の場合はどうであろうか？Ⅱ-ㄹ 생각이-類の場合，動作主体の種類によって表される意味が大きく異なるといった現象は確認されない[8]．したがって例文(25)～(28)では，常に動作主の「意志」，「計画」，「予定」が表される．

(25ㄱ) 나는 니가 용서해 줄 때까지 기다릴 생각이다. <임1>
私はお前が許してくれる時まで待つつもりだ.

(25ㄴ) 그는 기다릴 생각이었다. <홍2>
彼は待つつもりだった.

(26ㄱ) 나는 이제부터 그녀를 만날 때까지 그녀의 집 앞에서 계속 기다릴 작정이다. <청1>
私は今から彼女に会うときまで彼女の家の前でずっと待つつもりです.

(26ㄴ) 하워드는 서점이 잘 보이는 곳에 주차를 하고 택배 직원이 나타나기를 기다릴 작정이었다. <장2>
ハワードは本屋が良く見える所に車を停めて宅配の職員が現れるのを待つつもりだった.

(27ㄱ) 고3 겨울, 수능시험의 해방감을 느껴 보기도 전에 나는 10시간 동안 수술을 받았고, 서너 번의 수술을 더 받을 예정이다. <좋1>
高3の冬，大学入試の開放感を感じる前に，私は10時間手術を受けた．そして，さらに3・4回の手術を受ける予定である.

(27ㄴ) 權씨는 1억 5,000만원을 연금 형식으로 받을 예정이다. <신1>
権氏は1億5,000万ウォンを年金形式で受け取る予定である.

(28ㄱ) 나는 놀 만큼 놀고 즐길 만큼 즐기다 예쁘고 유식하고 돈 많은 여자를 골라서 결혼할 계획이다. <북1>
私は遊ぶだけ遊び，楽しむだけ楽しんでから，綺麗で教養がって金持ちの女を選んで結婚する計画だ.

(28ㄴ) 뤼시앙의 누이동생 에브는 9월에 결혼할 계획이다. <곽1>
ルシアンの妹のエブは9月に結婚する計画だ.

Ⅱ-ㄹ 생각이-類はⅡ-ㄹ 것이-やⅡ-ㄹ 터이-とは異なり，常に動作主体が潜在的動作をどのように実現させるのかを示すため，恒常的に動作主志向的性格を帯びていると考えられる．

3.2. Ⅰ-겠-, Ⅲ-ㅆ-との連辞関係

以下の例文(29)および(30)が示すように，Ⅰ-겠-とⅢ-ㅆ-はⅡ-ㄹ 생각이-類に前接し得ない：

(29) 나는 유럽으로 가겠을 {*생각/*작정/*예정/*계획}이다. <作例>
(30) 나는 유럽으로 갔을 {*생각/*작정/*예정/*계획}이다. <作例>

この現象は，Ⅰ-겠-，Ⅲ-ㅆ-，Ⅱ-ㄹ 생각이-類がそれぞれ表し得る意味にその原因があると考えられる．まずⅠ-겠-は，主に「推量」，「意志」，「未来性(futurity)」，「丁寧さ(politeness)」[9]等の非現実性(irrealis)[10]を帯びた個別的意味(particular meanings)を派生し得る．Ⅰ-겠-が表し得る「意志」および「未来性」は，Ⅱ-ㄹ 생각이-類が表す「意志」，「予定」，「計画」と意味的に重複する面がある．またⅠ-겠-が表し得る「推量」というモーダルな意味は，話し手志向モダリティに属し，Ⅱ-ㄹ 생각이-類が表す「意志」，「予定」，「計画」は潜在的動作に関して言及するモーダルな意味であるため，動作主志向モダリティに属する．動作主志向モダリティは命題の一部分に成り得るため，命題に対する話し手の判断形式を示す話し手志向モダリティの外側に位置することは出来ない．このような理由により，Ⅰ-겠-はⅡ-ㄹ 생각이-類に前接し得ないと考えられる．

次に，Ⅲ-ㅆ-がⅡ-ㄹ 생각이-類に前接し得ない理由について考えてみよう．Ⅲ-ㅆ-は過去時制(past tense)の形態素(morpheme)であり，テンポラルな意味(temporal meanings)「過去性(pastness)」，アスペクチュアルな意味(aspectual meanings)「完了性(perfectness)」といった個別的意味を派生し得る．したがって,Ⅲ-ㅆ-が動詞の語幹に結合した場合，その拡大された動詞語幹では「過去に行われた動作」や「完了した動作」が表される．主体の「意志」，「予定」，「計画」を表し得るⅡ-ㄹ 생각이-類は，潜在的な動作について言及する機能を持つため，動作自体が過去のものであったり，完了したものであるはずがない．よって，Ⅲ-ㅆ-はⅡ-ㄹ 생각이-類に前接し得ないのであろう．

上で述べたように，Ⅰ-겠-とⅢ-ㅆ-はⅡ-ㄹ 생각이-類に前接し得ない．ところが，以下の用例(31)～(38)が示すように，Ⅰ-겠-とⅢ-ㅆ-はⅡ-ㄹ 생각이-類に後接し得る：

(31) 내가 원하지 않으면 저 불로도 나를 죽일 수는 없다. 너는 저 끔직한 불로 이 심장탑을 가루로 만들어 버릴 생각이겠지.
<이2>

私が望まなければ，あの火でも私を殺すことは出来ない．お前は，あのおぞましい火でこの心臓塔を粉にしてしまうつもりだろう．

(32) 결국 은청룡은 허수아비일 뿐입니다. 그녀도 언제 물의 마신의 영향을 받아 미쳐 버릴지 모릅니다. 명분상의 여왕으로 올리고 그녀가 광룡 나찰이 되기 전에 다시 잠재워 버릴 작정이겠지요. <김5>

結局，銀青竜は置物であるだけです．彼女もいつか水の魔神の影響を受け狂ってしまうかも知れません．名分上の女王として掲げ，彼女が狂竜の羅刹になる前に，再び寝かせてしまうつもりですね．

(33) 다음주에 그 주말드라마를 재방송할 예정이겠죠? <作例>

来週，その週末ドラマを再放送する予定でしょう？

(34) 현장 주임은 그 장소를 알아낸 다음 도삼식 씨를 죽인 거고. 혼자 다 차지하려고 말이야. 전화번호가 일본 번호인 걸 보면 아마 유물은 일본 사람에게 팔 계획이겠지? 이래서 파란색 글은 현장 주임이 쓴 글임에 틀림없어. <한1>

現場主任は，その場所を知った後，トサムシクさんを殺したんだよ．全部独り占めしようとしてさ．電話番号が日本の番号であることから考えるに，たぶん遺物は日本人に売る計画なんだろう？だから青色の字は，現場主任が書いた字に間違いない．

(35) 소년은 떨리는 손으로 책을 들고 방을 나왔다. 밖으로 나갈 생각이었다. <김6>

少年は震える手で本を持ち部屋を出た．外に出るつもりだった．

(36) 놈의 손은 내 멱살을 움켜쥐고 꼼짝하지 않았다. 놈은 라만고에게 나를 끌고 갈 작정이었다. <김7>

奴の手は私の胸倉をぎゅっと掴んで身動きしなかった．奴はラマンゴのところに私を連れて行くつもりだった．

(37) 고광수는 날이 밝는 대로 해외로 떠날 예정이었다. <임2>

高光洙は，夜明けとともに海外へ発つ予定であった．

(38) 그는 서둘러 집을 나섰다. 신문사에 들러 채준오를 만난 후 의료기 상회에 갈 계획이었다. <김8>

彼は急いで家を出た．新聞社に寄ってチェ=ジュンオに会った後医療機の常会に行く計画だった．

まず(31)～(34)では，Ⅰ-겠-が「推量」を表している．「推量」は命題に対する話し手の判断形式を表すモーダルな意味である．Ⅱ-ㄹ 생각이-類が表す「意志」，「予定」，「計画」は命題の一部分を成すため，Ⅰ-겠-はⅡ-ㄹ 생각이-類に後接し得るのである[10]．また(35)～(38)の場合，Ⅱ-ㄹ 생각이-類は潜在的な動作の実現様式が「意志」，「予

定」，「計画」であることを示しているが，Ⅲ-ㅆ-が後接することにより，その「意志」，「予定」，「計画」が過去のものであることを表している．

3.3. 各種分析的な形との連辞関係

ここでは以下のような分析的な形とⅡ-ㄹ 생각이-類との連辞関係について考察しようと思う：

①「意志」を表すもの
　Ⅰ-고자 하-，Ⅱ-려고 하-，Ⅱ-ㄹ까 하-
②「能力，可能」を表すもの
　Ⅱ-ㄹ 수 있-，Ⅱ-ㄹ 수 없-
③「推量」を表すもの
　Ⅰ-는/Ⅱ-ㄴ/Ⅱ-ㄹ 것 같-，Ⅰ-는/Ⅱ-ㄴ/Ⅱ-ㄹ 모양이-
④「意志，推量」を表すもの
　Ⅱ-ㄹ 것이-，Ⅱ-ㄹ 터이-

①に該当するⅠ-고자 하-，Ⅱ-려고 하-，Ⅱ-ㄹ까 하-は，いずれも動作主の「意志」を表す分析的な形である．「意志」は動的モダリティに属するモーダルな意味であるが，Ⅱ-ㄹ 생각이-類によって表される「意志」，「予定」，「計画」も動的モダリティに属する．同性質のモーダルな意味の重複は無駄であるため，下の例文(39)～(44)が示すように，Ⅰ-고자 하-，Ⅱ-려고 하-，Ⅱ-ㄹ까 하-は，Ⅱ-ㄹ 생각이-類と連辞関係が全く成り立たないのであろう：

(39) 나는 유럽을 여행하고자 할 {*생각/*작정/*예정/*계획}이다.
<作例>

(40) 나는 유럽을 여행하려고 할 {*생각/*작정/*예정/*계획}이다.
<作例>

(41) 나는 유럽을 여행할까 할 {*생각/*작정/*예정/*계획}이다.
<作例>

(42) 나는 유럽을 여행할 {*생각/*작정/*예정/*계획}이고자 한다.
<作例>

(43) 나는 유럽을 여행할 {*생각/*작정/*예정/*계획}이려고 한다.
<作例>

(44) 나는 유럽을 여행할 {*생각/*작정/*예정/*계획}일까 한다.
<作例>

②に該当するⅡ-ㄹ 수 있-/Ⅱ-ㄹ 수 없-は動詞に結合した場合，「可能」或いは「能力」/「不可能」或いは「無能力」を表す分析的な形である．Ⅱ-ㄹ 수 있-/Ⅱ-ㄹ 수 없-が「可能」/「不可能」を表すのか，或いは「能力」/「無能力」を表すのかは語用論(pragmatics)的に決定される問題である．「可能」は何らかの外的拘束力により潜在的動作が実現され得るため，拘束的モダリティに属する．一方，「能力」は動作主に内在する力により潜在的動作を実現させるため，動的モダリティに属すると言い得るが，下の例文(45)～(48)が示すように，Ⅱ-ㄹ 생각이-類と結合し得ない：

(45) 나는 유럽을 여행할 수 있을 {*생각/*작정/*예정/*계획}이다.
<作例>

(46) 나는 유럽을 여행할 수 없을 {*생각/*작정/*예정/*계획}이다.
<作例>

(47) 나는 유럽을 여행할 {*생각/*작정/*예정/*계획}일 수 있다.
<作例>

(48) 나는 유럽을 여행할 {*생각/*작정/*예정/*계획}일 수 없다
<作例>

Ⅱ-ㄹ 수 있-/Ⅱ-ㄹ 수 없-が「可能」/「不可能」を表した場合，このモーダルな意味はⅡ-ㄹ 생각이-類が表す「意志」と性質的に相反するため連辞関係が成り立たないと思われる．またⅡ-ㄹ 수 있-/Ⅱ-ㄹ 수 없-が「能力」/「無能力」を表した場合は，同じ動的モダリティに属する異なる性格を持ったモーダルな意味であるため調和せず，連辞関係が成立しないのではなかろうか．

③に該当するⅠ-는/Ⅱ-ㄴ/Ⅱ-ㄹ 것 같-，Ⅰ-는/Ⅱ-ㄴ/Ⅱ-ㄹ 모양이-は認識的モダリティに属するモーダルな意味である「推量」を表す分析的な形式である．上で述べたように，認識的モダリティは命題に対する話し手の判断を示すため，話し手志向モダリティに属する．話し手志向モダリティは，動作主志向モダリティよりも外側に位置しなければならないという特徴を持つ．Ⅱ-ㄹ 생각이-類は，動作主の潜在的な動作に関する言及を行う形式であるため，そのモーダルな意味は動作主志向モダリティに属する．したがって，Ⅱ-ㄹ 생각이-類にⅠ-는/Ⅱ-ㄴ/Ⅱ-ㄹ 것 같-，Ⅰ-는/Ⅱ-ㄴ/Ⅱ-ㄹ 모양이-が前接するという連辞関係は成立しないが(例文(49)，(50))，Ⅱ-ㄴ 것 같-，Ⅱ-ㄴ 모양이-がⅡ-ㄹ 생각이-類に後接するという連辞関係は成立するのである(例文(51)～(58))[12]：

(49) 나는 유럽을 여행하{Ⅰ-는/Ⅱ-ㄴ/Ⅱ-ㄹ} 것 같을 {*생각/*작정/*예정/*계획}이다. <作例>

(50) 나는 유럽을 여행하{Ⅰ-는/Ⅱ-ㄴ/Ⅱ-ㄹ} 모양일 {*생각/*작정/*예정/*계획}이다. <作例>

(51) 2시간이면 함대의 진로상 저 함을 스쳐 지나가게 된다. 잘하면 나포라도 할 생각인 것 같다. <금1>
2時間であれば，艦隊の進路上あの艦の横を通り過ぎることになる．上手くいけば拿捕でもするつもりのようだ.

(52) "부수가 줄어들 모양이로군."이라고 중얼거리고만 있다. 아마 나를 구슬릴 작정인 것 같다. <이3>
「部数が減りそうだね．」と呟いてばかりいる．たぶん私を丸め込むつもりのようだ.

(53) 또한 그들은 현대극만에 그치지 않고 전통예능도 사이사이 공연할 예정인 것 같다. <유1>
また彼らは現代劇だけにとどまらず，伝統芸能も合間合間に公演する予定のようだ.

(54) 앞으로 과기대와 홍릉의 과학원이 통합될 계획인 것 같다. <진1>
これから科学技術大と洪陵の科学院が統合される計画のようだ.

(55) 제게는 누나가 하나 있는데, 누나는 대학교를 졸업하고 은행에 근무하면서 돈을 모아 다시 교대에 갈 생각을 하고 있었습니다. 그런데 누나도 그냥 자기 마음대로 해 버렸으면 좋겠지만 집안 분위기상 지금은 아예 결혼을 할 생각인 모양입니다. <김9>
私には姉が一人いますが，姉は大学を卒業し，銀行に勤めながらお金を貯めてまた大学に行こうと考えていました．ところが，姉もただ自分勝手にしてしまったら良かったのですが，家の雰囲気上，今はすっかり結婚するつもりのようです.

(56) 드디어 아내는 어머니에게 안방을 내 주고 그와 각방 거처를 할 생각인 모양이었다. <유2>
いよいよ妻は母に奥座敷を渡し，彼と別々の部屋で暮らすつもりのようであった.

(57) 차들은 모두 저택 현관에 그들의 주인들을 내려 놓고는 다시 밖으로 나갔다. 길고 화려한 파티가 끝나면 다시 호출되어 들어올 예정인 모양이었다. <김10>
車は全て邸宅の玄関に彼らの主人たちを降ろし，再び外へ出て行った．長くて派手なパーティーが終われば，また呼び出されて入ってくる予定のようであった.

(58) 당국에서 월요일을 쇠고기의 금식일로 만드는 안을 구상 중이라고 한다. 그리고 혼식과 분식을 국민운동화할 계획인 모양이다. <이4>
政府で月曜日を牛肉の禁食日とする案を構想中だと言う．そして混食と粉食を国民運動化する計画のようだ.

④に該当するⅡ-ㄹ 것이-，Ⅱ-ㄹ 터이-は，「推量」や「意志」といったモーダルな意味を表す分析的な形である．上で①と③の場合に関して説明したとおり，Ⅱ-ㄹ 생각이-類に「推量」或いは「意志」を表す形式は前接し得ない．これは，Ⅱ-ㄹ 것이-，Ⅱ-ㄹ 터이-の場合も例外ではない：

(59) 나는 유럽을 여행할 것일 {*생각/*작정/*예정/*계획}이다.
<作例>

(60) 나는 유럽을 여행할 터일 {*생각/*작정/*예정/*계획}이다.
<作例>

しかしながら(61)～(68)が示しているようにⅡ-ㄹ 것이-，Ⅱ-ㄹ 터이-はⅡ-ㄹ 생각이-類に後接し得る．この場合，Ⅱ-ㄹ 것이-，Ⅱ-ㄹ 터이-は必ず「推量」を表す．この現象もやはり，話し手志向モダリティは動作主志向モダリティの外側に位置し得るという規則によるものであろう：

(61) 현 정권을 타도할 생각일 겁니다. <문1>
現政権を倒すつもりでしょう.

(62) 베크톨은 나를 죽이고 또 카사르도 죽이고 나서 자기가 일족의 가장으로 앉을 생각일 터이지만 설사 그렇게 된다 해도 이 가난한 두 천막의 일곱 식구를 어떻게 먹여 살린단 말인가.
<안2>
ベクトルは私を殺し，またカサルも殺してから，自分が一族の長として居座るつもりだろうが，例えそのようになるとしても，この貧しい2つの天幕の家族7人をどうやって食わして生かすというのであろうか.

(63) 대장군은 놔두면 굶주린 폭력 집단으로 변해 우환 거리가 될 수 있는 제국군을 수습하러 간 것이며, 그 힘을 압박 기제로 이용하여 귀족들에게 귀족원 회의를 강요할 작정이며, 그리하여 새 황제가 선출되면 차기 황제에게 온전히 간수해 두었던 그 힘을 넘길 작정일 겁니다. <이5>

大将軍は，放って置けば暴力集団に変わり悩みの種になり得る帝国軍を収めに行ったのであり，その力を圧迫機制として利用し，貴族達に貴族院懐疑を強要するつもりであり，そして新しい皇帝が選出されれば，次期皇帝に大事に保っておいたその力を受け渡すつもりでしょう.

(64) 더구나 자네 어머니께서는 어떻게 그렇게 해서 입학만 되면 교회 속에서 학비라도 끌어내실 작정일 텐데…? <염1>
その上，君のお母さんはどうにかしてそんなふうにして入学さえできれば，教会の中から学費でも引っ張り出すつもりだろうに…?

(65) 보로미어는 위저드가 그것을 살펴보는 동안 칼자루를 잡은 채 그녀를 자세히 뜯어보았다. 나이는 30대 초반 정도로, 아그네스처럼 빼어난 미모는 아니지만 기품과 위엄이 서린 얼굴을 하고 있었다. 방 앞의 명패에는 4급인 메이지라고 씌어 있었으니 아마도 이번 봉사 기간이 지나면 상급 서열로 올라갈 예정일 것이다. <김11>
ボローミアはウィジャードがそれを調べている間，剣の柄を握ったまま彼女を目を凝らして見つめた．歳は30代初盤ほどであり，アグネスのようにずば抜けて美貌ではないが気品と威厳が立ち込めた顔立ちをしていた．部屋の前の名入り札には，4級の魔法使いであると書かれていたから，たぶん今度の奉使期間が過ぎれば，上級序列に上がる予定であろう.

(66) 식료와 기름을 챙기는 것을 보니 며칠 사이에 여기를 떠날 예정일 터이다. <作例>
食料と油を取り揃えていることから察するに数日のうちにここを去る予定のはずだ.

(67) 그가 직접적으로 말한 적은 없지만, 루비엣을 비롯한 벨타트론의 기사들은 그가 불면증에 시달린다는 것을 눈치 채고 있었다. 이번에도 잠이 오지 않아 산책이라도 할 계획일 것이다. <오1>
彼が直接話したことは無いが，ルビエットをはじめとしたベルターロンの技師たちは，彼が不眠症に苦しんでいるということに気づいていた．今回も眠気がささなくて散歩でもする計画なのであろう.

(68) 그는 일을 마치고 고향으로 돌아갈 계획일 터이다. <作例>
彼は仕事を済ませて故郷に帰る計画のはずだ.

4. Ⅱ-ㄹの機能とⅡ-ㄹ 생각이-類の表すモーダルな意味との関連

ここでは連体形語尾Ⅱ-ㄹの文法的意味について概説し，Ⅱ-ㄹ 생각이-類の表すモーダルな意味との関連性について述べようと思う．

これまで連体形語尾Ⅱ-ㄹの文法的意味について幾つかの見解が示されてきたが，主に時制(tense)，相(aspect)，法(mode)，モダリティの観点から接近したものがほとんどである．남기심·고영근(1993)，백봉자(1999:167)等は，Ⅱ-ㄹを未来時制(future tense)として捉え，また장경희(1985:127-128)は発生予定相として捉えた．しかしながら，Ⅱ-ㄹを時制や相の形式として見なす立場は，Ⅱ-ㄹの前に時制形式のⅢ-ㅆ-や相形式のⅠ-고 있-/Ⅲ 있-が現れ得るという統辞論的事実を考慮した場合，問題があるように思われる：

(69) 그가 아니었다면 한 번도 눈여겨보지 않았을 것들, 지독한 어둠인 줄 알았는데 실은 너무 눈부신 빛인 것들이 있다는 것을 모르고 살았을 것이다. 〈공1〉
彼じゃなかったら一度も注意して見なかったであろうもの，凄まじい闇であると思っていたのに，実はとても眩しい光であるものがあるということを知らずに生きていたであろう．

(70) 영원불변한 것은 없다. 영원히 남아 있을 집을 지을 수 있을까. 〈김12〉
永遠普遍のものは無い．永遠に残っているような家を建てることが出来るだろうか．

(71) 이제 우리에게 숙제로 남은 것은 육체적인 궁합이 맞는지 맞지 않는지 이리저리 재보는 것인데. 그 부분에 대해서 진짜로 궁금해 하고 있을 사람은 세영이 오빠일 것 같은데? 〈한3〉
もう私たちに宿題として残っているのは肉体的な相性が良いのか悪いのかあれこれ測ってみることだけど．その部分について本当に気になっているであろう人はセヨン兄さんだろうと思うけど？

Ⅱ-ㄹを法，或いはモダリティに関する形式と見なす立場は，上記の2つの立場(「時制説」および「相説」)よりも説得力があるように思われる．최동주(1998:245-246)や고영근(2007:180-183)等はⅡ-ㄹを「推測」の要素として見ている．しかしながら，筆者が다카치(2008:636-637)で示したように，Ⅱ-ㄹは「推測」だけではなく「可能性(possibility)」(例文(72))，「義務(obligation)」(例文(73))，「意志(volition)」(例文(74))，「能力(ability)」(例文(75))のような個別的意味(particular meanings)を表し得る：

(72) 사진 속의 남자를 알고 있는 사람이 이 유인물을 볼 확률은 얼마나 될까? <다카치(2008:637)>
写真の中の男を知っている人物がこの印刷物を目にする確立はどれほどになるだろうか？

(73) 섣불리 전화를 해서 이미 죽은 그와의 관계를 의심받을 필요는 없다. <다카치(2008:637)>
下手に電話をして，既に死んだ彼との関係を疑われる必要は無い.

(74) 그는 아버지를 살해할 마음으로 와 아버지를 너무나 닮았던 숙부를 아버지로 잘못 알고 살해했다고 진술했다.
<다카치(2008:637)>
彼は父親を殺害するつもりで来て父親にあまりにも似ていた叔父を父親と間違えて殺害したと陳述した.

(75) 나는 죽을 능력도 있고 살 능력도 있다. <다카치(2008:637)>
私には死ぬ能力もあり，生きる能力もある.

したがって，Ⅱ-ㄹを「推測」ではなく，より抽象的な概念を有する一般的な意味(general meanings)を表す形式として見なすほうが無難であると思われる.

이효상(1995:212-218)，村田(2000:95-114)，배진영(2001:154-155)等は，Ⅱ-ㄹを「非現実性」という一般的意味を表す法の形式と見なし，「推測」，「意志」等の個別的意味が派生し得るという見解を示している．また다카치(2008:634-638)は，Ⅱ-ㄹを「非現実性」を表す形式として見なしているが，文法的には単に連体修飾節を形成するものと見ており，法の形式としては見なしていない．박재연(2009:167-174)は，現代朝鮮語に法の範疇を設定すること自体に否定的な立場を示しており，Ⅱ-ㄹを「非現実性」を表示するモダリティの形式として見なしている.

Ⅱ-ㄹが，他の連体形語尾と形態論的対立関係を成し得るという点を考慮すれば，形態論範疇の 1 つである法として解釈することも可能ではある．しかしながら，「非現実性」という一般的意味はモーダルな意味だけでなく，テンポラルな意味，アスペクチュアルな意味(aspectual meanings)とも関連し，実際にそのような意味が派生し得るという点，またⅡ-ㄹの最も重要な文法的役割は体言を修飾し，連体修飾節を形成することである点を考慮した場合，安易にⅡ-ㄹを法の形式として解釈することはできないであろう．したがって，「非現実性」を既存のモダリティの枠組みに押し込んで解釈しようとするのも問題である．「非現実性」という文法範疇を新たに立てるという手段もあるが，これに関してはより慎重な議論が必要である．以上のような問題に関してはより深く検討する必要があるが，今後の課題として残しつつ，本稿は，Ⅱ-ㄹ

を「非現実性」を示す連体修飾節形成語尾と見なすことにする.

上でⅡ-ㄹ 생각이-類は，「動作主が行うべき潜在的動作の実現様式について言及する形式」であると述べた．潜在的動作とは，当該の時点においてまだ実現されていない動作であるため，「非現実性」を帯びていると言い得る．「非現実性」は名詞생각/작정/예정/계획が持つ本来の語彙的な意味と調和し易いと言い得る．なぜなら，これらの名詞が持つ本来の意味である「考え」や「決定」には「意志」という意味が，そして「予定」や「計画」には「未来性」という意味が含まれるからである．「意志」や「未来性」は「非現実性」と非常に関連が深い意味である．したがって，＜連体形語尾Ⅱ-ㄹ ＋ 名詞생각/작정/예정/계획 ＋ 指定詞이-＞という構成の分析的な形が，「動作主が行うべき潜在的動作の実現様式について言及する形式」として機能するのは，単に偶然ではない．「非現実性」を帯びた形式Ⅱ-ㄹと名詞생각/작정/예정/계획との結合であるからこそ，それ相応の文法的意味を示すのである．

5. 今後の課題

今後解明されなければならない問題点は，以下のとおりである：(イ) Ⅱ-ㄹ 생각이-，Ⅱ-ㄹ 작정이-，Ⅱ-ㄹ 예정이-，Ⅱ-ㄹ 계획이-が表し得る一般的な意味および個別的な意味の解明，(ロ) Ⅱ-ㄹ 생각이-，Ⅱ-ㄹ 작정이-，Ⅱ-ㄹ 예정이-，Ⅱ-ㄹ 계획이-の各形式間の機能的な類似点と違いの解明，(ハ)Ⅱ-ㄹ 생각이-類と他の分析的な形(例：Ⅱ-ㄹ 것이-，Ⅱ-ㄹ 터이-，Ⅱ-려고 하-，Ⅱ-ㄹ까 하-，Ⅰ-고자 하-等)との機能的な類似点と違いの解明.

<<参考文献>>

(日本語で書かれたもの)

菅野裕臣(2006)，“朝鮮語の形態論的単位について”，『韓国語学年報』第2号 pp.159-177，神田外語大学韓国語学会，千葉.

菅野裕臣他(1991)，『コスモス朝和辞典（第2版)』，白水社，東京.

高地朋成(2008)，“現代朝鮮語の連体形語尾Ⅱ-ㄹ小考”，『韓国語学年報』第4号 pp.1-20，神田外語大学韓国語学会，千葉.

濱川祥枝(2000)，『クラウン独和辞典（第2版)』，三省堂，東京.

村田寛(2000)，“現代朝鮮語の＜-ㄹ＞連体形について”，『朝鮮学会』第175輯 pp.85-128，朝鮮学会，奈良.

山田小枝(1990)，『モダリティ』，同学社，東京.

(朝鮮語で書かれたもの)

고영근(2007)，『한국어의 시제 서법 동작상（보정판)』，태학사，서울.

남기심(2001), 『현대 국어 통사론』, 태학사, 서울.
남기심·고영근(1993), 『표준 국어문법론 (개정판)』, 탑출판사, 서울.
다카치 토모나리(2008), "현대 한국어 관형절 어미 기능에 대한 시론", 『언어』 제33권 4호 pp.629-664, 한국언어학회, 서울.
박재연(2009), "한국어 관형사형 어미의 의미 기능과 그 문법 범주", 『한국어학』 제43호 pp.151-177, 서울.
배진영(2001), "국어 관형절 시제에 대하여", 『이중언어학 』 제18호 pp.141-164, 이중언어학회, 서울.
백봉자(1999), 『외국어로서의 한국어 문법 사전』, 연세대학교 출판부, 서울.
이효상(1995), "다각적 시각을 통한 국어의 시상체계 분석", 『언어 』 제20호 pp.207-250, 한국언어학회, 서울.
장경희(1985), 『현대국어의 양태 범주 연구』, 탑출판사, 서울.
최동주(1998), "시제와 상", 『이익섭 선생 회갑 기념 논총: 문법연구와 자료』 pp.227-260, 탑출판사, 서울.

(英語で書かれたもの)

Bybee, J. L.(1985), *Morphology: A study of the relation between meaning and form*, John Benjamins Publishing Company, Amsterdam/Philadelphia.
Hopper, P. J. & Traugott, E. C.(2003), *Grammaticalization Second edition*, Cambridge University Press, Cambridge.
Palmer, F. R. (2001), *Mood and Modality Second edition*, Cambridge University Press, Cambridge.

<<言語資料>>

<공1>공지영(2005), 『우리들의 행복한 시간』, 푸른숲, 서울.
<곽1>곽차섭 외(2006), 『서양의 고전을 읽는다 4』, 휴머니스트, 서울.
<곽2>곽덕영(1999), 『교육사회와 생활』, 학문사, 서울.
<구1>구인환(2006), 『국어 용어사전』, 신원문화사, 서울.
<권1>권영민 외(2004), 『다섯 수레의 책』, 서울대학교출판부, 서울.
<금1>금영환(2004), 『제2대황해시대』, 영상노트, 서울.
<김1>김슬옹 외(2005), 『논술 짱 구술 UP』, 세종서적, 서울.
<김2>김연수 외(2009), 『제33회 이상문학상 작품집』, 문학사상, 서울.
<김3>김민주(2008), 『커져라 상상력 강해져라 마케팅』, 리더스북, 서울.
<김4>김병모(2008), 『허황옥 루트 인도에서 가야까지』, 역사의 아침, 서울.
<김5>김유정(2001), 『영혼의 물고기 2』, 황금가지, 서울.
<김6>김이환(2004), 『에비터젠의 유령』, 북하우스, 서울.
<김7>김종일(2008), 『손톱, 랜덤하우스코리아』, 서울.
<김8>김태수(2004), 『한국자연의학회』, 새로운사람들, 서울.
<김9>김정일(2002), 『냅둬』, 열매출판사, 서울.
<김10>김명섭(2006), 『아켈다마 2』, 황금가지, 서울.
<김11>김민영(2006), 『팔란티어 2』, 황금가지, 서울.
<김12>김현식(2006), 『역사란 무엇인가』, 휴머니스트, 서울.
<김13>김홍철(1999), 『신관광 법규 해설』, 학문사, 서울.
<동1>동평운(2005), 『혼원무벽 5』, 영상노트, 서울.
<문1>문제용(2006), 『대륙전기 4』, 동아, 서울.

<박1>박민수(1999), 『삶의 중심을 찾아서』, 새미, 서울.
<박2>박일봉(2006), 『사서입문』, 육문사, 서울.
<박3>박금철(2003), 『비서실무론』, 한올출판사, 서울.
<북1>북미혼(2009), 『포천망쾌 1』, 영상노트, 서울.
<송1>송정림(2008), 『영화처럼 사랑을 요리하다』, 예담, 서울.
<신1>신예리(2003), 『당신의 재산을 리모델링하세요』, 중앙M&B, 서울.
<안1>안치용(2009), 『트렌치 이코노믹스』, 리더스북, 서울.
<안2>안석표(2006), 『칭기즈칸』, 자음과모음, 서울.
<양1>양귀자(2001), 『모순』, 살림출판사, 서울.
<양2>양요나(2008), 『디자인 마인드』, 시공사, 서울
<염1>염상섭(2006), 『삼대』, 신원문화사, 서울.
<오1>오윤(2007), 『주작의 아이들 3』, 동아, 서울.
<유1>유민영(2000), 『20세기 후반의 연극문화』, 국학자료원, 서울.
<유2>유애숙(2005), 『장미 주유소』, 문이당, 서울.
<이1>이종환(2006), 『매직램프』, 원앤원북스, 서울.
<이2>이영도(2003), 『눈물을 마시는 새 4』, 황금가지, 서울.
<이3>이제하(1997), 『초식』, 문화동네, 서울.
<이4>이어령(2003), 『차 한잔의 사상』, 문학사상사, 서울.
<이5>이영도(2006), 『피를 마시는 새』, 황금가지, 서울.
<이6>이명옥(2007), 『센세이션 展』, 웅진지식하우스, 서울.
<임1>임선영(1999), 『상처 2』, 삼전기획, 서울.
<임2>임경석(2008), 『잊을 수 없는 혁명가들에 대한 기록』, 역사비평사, 서울.
<장1>장용학(2006), 『장용학 문학전집 3』, 국학자료원, 서울.
<장2>장용민(2009), 『신의 달력 1』, 시공사, 서울.
<좋1>좋은생각편집부(2009), 『좋은생각 2009년 2월호』, 좋은생각사람들, 서울.
<진1>진정일(2007), 『고분자화학 연구실에서 무슨 일이 이어나고 있을까』, 양문, 서울.
<최1>최효진(2008), 『소명의 바다에서 행복을 찾아라』, 새로운사람들, 서울.
<청1>청어(2005), 『계간 소설가 2005년 봄호』, 청어, 서울.
<한1>한국심리학회(1997), 『현대 심리학의 이해』, 학문사, 서울.
<한2>한정기(2006), 『플루토 비밀 결사대』, 비룡소, 서울.
<한3>한승원(2001), 『화사』, 작가정신, 서울.
<홍1>홍준희(2007), 『골프 멘탈이 반이다』, 대한미디어, 서울.
<홍2>홍윤정(2009), 『미스터 버스』, 청어람, 서울.

<<脚注>>

1) 本稿においてⅠ，Ⅱ，Ⅲは，それぞれ第Ⅰ語基，第Ⅱ語基，第Ⅲ語基を意味する．語基に関しては菅野裕臣他(1991:1009-1013)を参照．

2) ある単語の元来の意味が消失してしまうことを言う．Hopper & Traugott(2003:94)を参照．

3) 例文(a)～(d)を見れば分かるように，생각，작정，예정，계획はそれぞれ連体形語尾や所有代名詞による修飾を受けずとも自然に用いられ得る．このことは 생각，작정，예정，계획が自立名詞であることを意味する：

(a) 인간이 성공하려면 마음과 생각을 바꿔야 한다. <곽2>
人間が成功しようとすれば心と考えを変えなければならない．

(b) “핀란드 사람들은 세상의 모든 구속에서 자유로운 사람처럼 보였죠. 너무나 고요하고 평화롭게 여겨졌어요. 그래서 여기로 오게 된 거였어요. 작정도 없이.” <송1>
「フィンランドの人々は世の中の全ての拘束から自由な人のように見えましたよ．あまりにも静かで平和に思われました．それでここに来ることになったんです．考えも無しに．」

(c) 예정이 변동되었을 때는 신속히 정확하게 처리를 하도록 한다. <박3>

予定が変更された時は，迅速に性格に処理をするようにする．

(d) 계획은 조직의 목표를 달성하는 데 적극적으로 기여할 수 있는 것이어야 한다. <김13>

計画は，組織の目標を達成する場合，積極的に寄与することが出来るものでなければならない．

4) < I -는 + 작정 + 이- >という統辞的構成を持つ例文を探すことはできなかった．

5) 韓国では一般的に，連体形語尾のことを「冠形詞形語尾(관형사형 어미)」と呼び，連体修飾節のことを「冠形節(관형절)」と呼ぶ．

6) このような事実を考慮すれば，モダリティは全て主観的であるという見解には問題があるということが分かる．

7) より厳密に言えば，Ⅱ-ㄹ 것이-やⅡ-ㄹ 터이-が推量を表すのは，語用論的環境により決定される場合もある．なぜなら動作主体が話し手であるにもかかわらず，「推量」を表していると見なし得る場合があるからである．これについてはより綿密な考察が必要である．

8) ただし，動作主体が第三者(無情物)である場合，Ⅱ-ㄹ 생각이-，Ⅱ-ㄹ 작정이-，Ⅱ-ㄹ 계획이-は用いられない．Ⅱ-ㄹ 예정이-のみ自然な文として成立する(例：낙선전은 살롱전이 개최된 이후인 5월 15일 개막될 예정이다. <이6>(落選展は公式展覧会が開催された以後の5月15日に開幕される予定である．))．査読をして下さった編集委員の先生方から，主体が회사(会社)，기업(企業)，재단(財団)等のような団体名詞の場合は，Ⅱ-ㄹ 계획이-が用いられるとのご指摘を頂いた．団体名詞は一見，無情物のように捉えられるが，団体名詞はそれを組織する人間が集まった社会的集団を指し示すため，有情物的であると見なすことができるであろう．

9) 「丁寧さ」はⅠ-겠-が終止形語尾に前接する場合に現れ得る特殊な意味である．

10) Palmer(2001)を参照．なお「丁寧さ」が，非現実性を帯びた文法形式から個別的な意味として派生する現象は諸言語でも確認され得る．例えば，ドイツ語の外交的接続法(diplomatischer konjunctiv)がそうである．外交的接続法の特徴は直接性を避けて，間接的かつ婉曲的に言う点である(濱川(2000:1758))．(例：Sie mir helfen? 「手伝っていただけますか？」)

11) ただし，主体が話し手と一致する場合は，Ⅰ-겠-はⅡ-ㄹ 생각이-類に後接し得ない(例：*내가 자네를 도와줄 {생각/작정/예정/계획/}이겠다.)．

12) Ⅰ-는 것 같-およびⅠ-는 모양이-は，動詞語幹にのみ接続するためⅡ-ㄹ 생각이-類には後接し得ない．またⅡ-ㄹ 것 같-およびⅡ-ㄹ 모양이-もⅡ-ㄹ 생각이-類には後接し得ないが，この原因は明確ではない．これについては今後綿密な考察が必要である．

【謝辞】本稿に対する貴重なご意見をご提示して下さった『韓国語学年報』編集委員会の先生方，そして調査の段階で協力を惜しまなかった韓国人インフォーマントの諸氏に心から感謝致します．

분석적 형식 'Ⅱ-ㄹ 생각이-'류 잡고

高地朋成
고려대학교 국어국문학과 박사과정

본고는 현대 한국어에 존재하는 수많은 분석적 형식들(analytic forms)에 대한 연구의 일환이며, 'Ⅱ-ㄹ 생각이-', 'Ⅱ-ㄹ 작정이-', 'Ⅱ-ㄹ 예정이-', 'Ⅱ-ㄹ 작정이-'(이하 'Ⅱ-ㄹ 생각이-'류)를 그 연구대상으로 삼는다. 이들은 분석적 형식인 'Ⅱ-ㄹ 것이-'나 'Ⅱ-ㄹ 터이-'와 달리 내포되어 있는 명사의 어휘적 의미가 표백(bleaching)되어 있지 않아 그 명사의 어휘적 의미가 거의 변함이 없이 남아 있으므로 문법화(grammaticalization)의 정도가 낮은 분석적 형식이라고 할 수 있다. 본고가 'Ⅱ-ㄹ 생각이-'류를 분석적 형식으로 보는 이유는 다음과 같다: (1) 'Ⅱ-ㄹ 생각이-'류가 쓰인 문장은 전형적인 지정사(指定詞) '이-'가 쓰인 구문과 달리 주부(主部)와 서술부(敍述部)의 동격관계(同格關係)가 이루어지지 않는다. (2) 명사 '생각', '작정', '예정', '계획'의 지시대상이 명확하지 않다. (3) 'Ⅱ-ㄹ 생각이-'류의 내부 구조를 보면 관형사형 어미(冠形詞形 語尾) 'Ⅱ-ㄹ'이 내포되어 있음을 알 수 있다. 'Ⅱ-ㄹ'은 그 앞에 오는 동사와 어울려 관형절을 형성하는데, 이때 반드시 동격관형절(同格冠形節)을 형성한다.

본고는 'Ⅱ-ㄹ 생각이-'류를 통사론적 및 양태적 관점에서 바라보았다. 'Ⅱ-ㄹ 생각이-'류는 동작주의 종류에 따라 나타내는 문법적 의미가 변하지 않는다. 즉 항상 동작주의 [의지], [예정], [계획]을 나타내는 형식이라고 할 수 있다. [의지], [예정], [계획]은 잠재적 동작을 실현화 시키기 위한 것이므로 동작주 지향적(動作主志向的) 성격을 띤 양태적 의미라고 할 수 있다. 이것은 'Ⅱ-ㄹ 생각이-'류와 선어말 어미 '-ㅆ-'과 '-겠-', 분석적 형식 'Ⅱ-ㄹ 것이-', 'Ⅱ-려고 하-' 등과의 통합관계를 살펴보아도 알 수 있다.